

## 週日の説教

金 大烈 神父 2009年12月18日(金)

### 《揺るぎない心と信仰》

ある会社で実際にあった話です。

社員採用のための面接試験がありました。その試験を受けた人の中に、顔の長い青年がいました。面接官の1人は彼に「長い顔の青年よ。馬鹿と阿呆の違いがわかりますか。」という質問しました。その青年は、平気な顔をして「たぶん、そのような質問をする人を馬鹿と言い、そんな質問をされて顔を赤らめてしまう人が阿呆でしょう。」と答えました。その答えを聞いた面接官は、驚き感動したそうです。面接官は、会社の役に立つ人かどうかを試すために、わざとそのような質問をしたのです。そして質問をされた青年は、そのような質問をした面接官を困らせようと思ったのでしょうか。同時に、こんな質問をされても揺るぎない姿を保とうとする気持ちもあったのでしょうか。

これは極端な話かもしれませんが、私たちの生活、かかわりの中でも、本当に礼儀のない人に出会う場合が結構あります。わざわざ気分を悪くさせる人もいます。その時の皆様の反応は、どうでしょうか。おそらく、腹が立ちますよね。そして顔を赤らめて、その人への否定的な思いで満たされると思います。実際には、相手が悪いことは確かです。しかし、それに縛られてしまい、自分のことまで否定してしまうのも望ましくないと思います。

私たちは、礼儀のない人に出会った時、避けたい気持ち、その人を責めたい気持ちになります。神父である私でも、その様な人に出会います。そのような時に、この青年が見せたような態度が必要ではないでしょうか。『揺るぎない』『揺れない』そういう心の強さが必要ではないかと思えます。

今日の福音(マタイ1・18 24)で、自分が近づかなかったのにもかかわらず、婚約者のマリアが身ごもっていることがヨセフに分かりました。「ヨセフは正しい人であったので、ひそかに縁を切ろうと決心した。」と書いてありますよね。しかし、夢に天使が現れて、「マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。」「恐れず妻マリアを迎え入れなさい。」と言っただけでヨセフは従いました。皆様、夢ですよ。現実ではなくてただの夢です。もし皆様に、誰かすごく嫌いな人がいて、夢で「その人はよい人だから、憎んではいけない。」と言われたら、その憎しみがなくなるのでしょうか。しかしヨセフは、夢の中の天使の話聞き、その言葉に従いました。

さあ、どういうことでしょうか。「揺るぎない」、「変わらない」態度を保つために、私たちには信仰が必要です。この共同体の中にもいろいろなぶつかりあいがあると思います。あわないことがあると思います。その時、それを乗り越える唯一の方法は何でしょうか。それは、私たちそれぞれが持っている神様に対する信仰です。そして、教会の教えです。聖書ではイエス様が、そのような場合、「赦しあわなければならぬ。広い心で受け入れなければならぬ。」とおっしゃいました。「だから私もそのようにしなければならぬ。」という強い心を毎日意識しなければなりません。今日の話を通して、皆様と一緒にそれを考えてみたかったのです。

さあ皆様、ヨセフは、夢に現れた天使から「あなたの婚約者のマリアが生む子どもは、聖霊によって宿ったのだから、信仰によって受け入れなさい。」と言われ、目が覚めてからそのようにしました。

そう書いてある聖書を読んだら、ある意味ではヨセフは馬鹿に思えるかもしれません。ある意味では、間違えた信仰を持っている人に見えるかもしれません。しかし彼は、夢だけでこのように決めたのではないと思います。今まで、いろいろな信仰的な心を持っていたから、ただ夢で見ただけの天使の話を受け入れることができたのだと私は思います。

皆様、私たちの生活でも、揺れてしまうことがいろいろあると思います。その時には、神様に対する絶対変わらない信仰を思い出してみてください。でも、「神様に対する信仰を理解するのは難しい」と思われるかもしれません。しかし、教会は教えとして示しています。話しています。聖書を通して、要理を通して、いろいろな正しい道を教えています。その道に従おうとする心が何よりも必要ではないでしょうか。

そしてもう一つ別の話です。皆様、イエス様はなぜこの世に来られたのでしょうか。今日の福音を読むと明らかになります。

**「この子は自分の民を罪から救うからである。」**

私たちがイエス様を待っている意味は、いろいろあります。しかしその中に一つ、一番大きい意味として心に刻まなければならないことがあります。

私たちは、仕方なく罪のうちに生きて死にます。いくらきれいな心で、きれいな生き方をしようとしても罪の中にいます。しかし、その罪から解放してくださるのがイエス様なのです。ですから希望が生じます。「私のようなものでも、救われる」という希望を持つのが降誕の意味だと思います。

ありがとうございました。